

教育長日記 (平成25年5月16日)

青い空に浮かぶ白い雲 30



—「プラネタリウムにようこそ」—

東大和市教育委員会 教育長 真如昌美

(今日の言葉) そこそこでよいと言う人に成長は望めない ベストの上を目指す

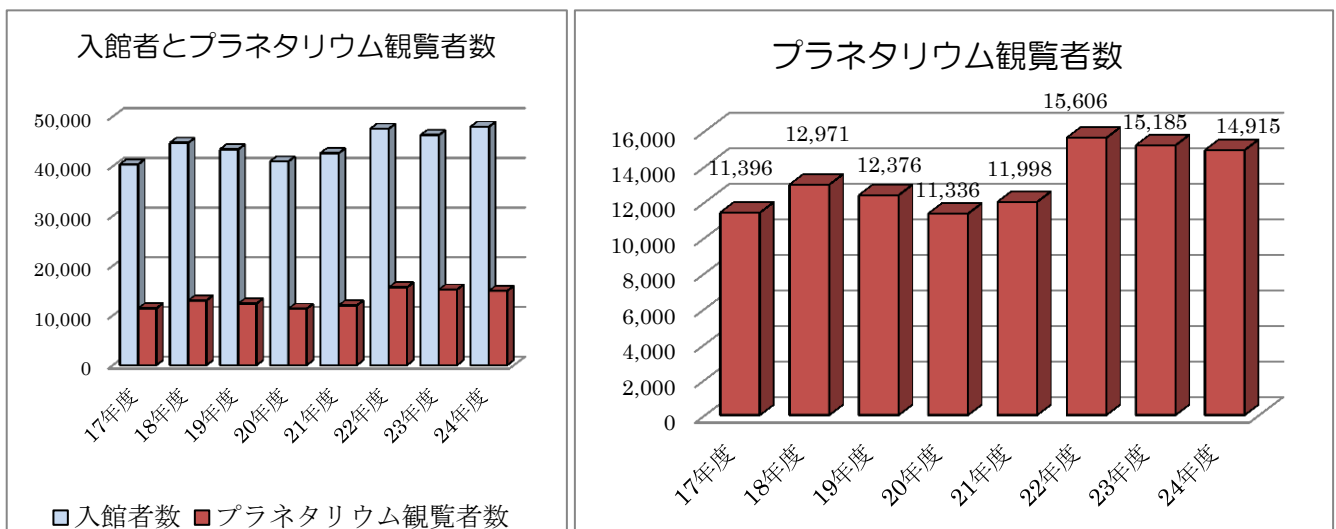
東大和市のプラネタリウムにようこそ

東大和市には郷土博物館があり、そこにはプラネタリウムの施設もあります。設備そのものは老朽化が進んでいますが、他の市区にはない施設であることから、未だに多くの子ども達や天文ファンたちが足を運んで来ています。ここ数年のプラネタリウム観覧者数について村上社会教育課長にまとめてもらったところ、下のようなグラフになりました。

平成22年に始まった「はやぶさ」ブームや、積極的なプラネタリウムのPR(地元の商店街や理髪店ほかにポスターを掲示してもらう等)、職員による手作り資料の館内掲示、多様なプログラム構成など改善工夫により、プラネタリウム観覧者数は増加しました。ブームが去っても観覧者数が減らないように、今、教育委員会では様々なアイデアを考えています。東大和市の貴重な財産プラネタリウムです。よいアイデアがありましたら聞かせてください。郷土博物館職員が掲げる本年度の観覧者数の目標は、およそ5000人増の20000人!です。

(☆郷土博物館職員☆ 後藤館長、坂本、野崎、浜田、林、高橋、北村、田村、真野のみなさん)

プラネタリウム観覧者数の推移



えっ、もう頑張れる歳じゃあないですよー

ゴールデンウィークが終わり、緑が一層濃くなりはじめています。出張帰りのモノレール、立川北駅から乗ろうとしてビックリ!何と車内は、子ども、子ども、子ども、さらに子どものすし詰め状態。意を決してその混雑の中に乗車。そうなんです、季節は遠足シーズンなのです。久しぶりに賑やかな子供の声を聞きました。

先生は「他のお客さんが乗っていますよ。静かにください」「ほら、そこ、またしゃべってる」その格闘(?)は、玉川上水まで続きました。自分が引率していたらきっと気が気ではないのですが、今回は校長でもないし、子ども達の声はそれほど気にもならず、遠足の様子を尋ねる余裕がありました。

子ども達が降りて最後に担任の先生が降りました。と、その時、「真如先生!」「ん?」な、なんとその担任は、私が府中で指導主事をしていた時の新規採用教員でした。「元気?頑張れよ」「えっ、もう頑張れる歳じゃあないですよ~」そういえば、あの頃からもう25年が過ぎようとしています。あの日の若者が立派な教員になっていました。